

6年2組

 わたしの思いをつないでいく 大池活動  
 ～みんなが楽しめる大池に～


## 私たちが卒業した後、大池はどうなるの

雪が降る前に、少しでも大池をきれいにしたいと考えた子どもたち。休み時間に自主的に大池の中に沈んでいる落ち葉をきれいにしたり、破れた土嚢を運び出したりしてきました。大池活動を始めた当初は3週間かかってようやく大池から水を抜くことができていました。それが、今では2日もあればほとんどの水を抜くことができるようになりました。それは、子どもたちの中で活動の流れが見えているということ。誰に言われたでもなく、自分の役割分担を見だし、主体的に動いているということの表われです。頭で“理解する・わかる”ということではなく、自分自身で“考え行動する・できる”ということなのだと思います。

自分たちの卒業が現実味を帯びてくると、子どもたちの中で、「大池をもっときれいにしたい」という思いは加速していきます。「シートのをとにかく埋めなくちゃ」「シートそのものを張り替えればいいんじゃないかな」と、大池に張ってあるシートに目を向けていきました。

卒業まであと3ヶ月をきったある日、担任から子どもたちに次のことを伝えました。

担任：「大学にお願いすれば、シートの穴をふさぐことはできるかもしれない。」

子どもたち：「やったー！先生、お願いしてよ！」

担任：「もしも、大学が『大池を直す』と判断してくれたら、それはつまりみんなの手から大池が離れていくということなんだよ。大学が『直す』なんだから、大人が仕事としてやるということ。業者の人がやるということなんだ」

担任からの言葉を聞いた後、子どもたちからすぐには言葉が返ってきませんでした。それは、子どもたちの中で葛藤があったということです。業者の方が『仕事』として大池を修復すれば、それは子どもたちが想像している通りか、それ以上に完璧に仕上がることでしょう。しかし、それは自分たちが大池活動としてやってきたこととは違ってしまいます。大学が動いてくれなければ、大池を覆うシートをきれいに修復することはできない。「どうしたらいいんだろう」という子どもたちの心の声が担任には聞こえてきました。

これまで、「大池をみんなが楽しめる場所にしたい」「大池がきれいになってほしい」という願いや思いをもって活動してきた子どもたちにとって、現実を知るということは辛い決断を迫られることでした。自分たちにはどうすることもできない現実がある。



「シートの穴がなくなれば、泥が入ってこないから大池はずっときれいでいられるんじゃないかな」と考えた子どもたち。学校という世界をひとたび離れば自分たちの力ではどうすることもできないことがあるという『本当のこと』に出合った子どもたち。自分たちが卒業した後は大池をきれいにする人がいなくなってしまい、もとの大池に戻ってしまうのではないかと薄々感じ取っていた子どもたち。『本当のこと』に向き合った子どもたちが下した決断は、「完璧じゃないかもしれないけど、自分たちでできるところまでやりたい」というものでした。

## 最後まで大池活動をやりたい

暖冬と言われた今年の冬ですが、3月に入り真冬並みの寒さと降雪に見舞われました。学校行事の合間をぬって、卒業式の2週間前にあたる3月1日に、「大池を一気に修復しよう」と計画を進めてきました。しかし、3月1日はあいにくの雪模様。その後も天気が回復せず、大池活動は1週間延期となってしまいました。来週は卒業式というところまで大池活動を進められず、時間だけが過ぎていきました。

まだ寒さはあるものの、ようやく大池活動ができる日がきました。前日までの降雪で大池には水が溜まり、シートは濡れています。時間の限り水を抜き、シートの水気を雑巾でふき取り、接着剤を着けてゴムシートを張り付けるという作業を繰り返していきます。その作業は卒業式を明後日に控えた日まで続けました。当初予定していた計画とは違って、多くの作業を同時進行していった子どもたち。お互いに声を掛け合い、限られた時間の中で精一杯を尽くしました。

大池にはふさがきれなかった穴があいています。「もっと時間があればな」、「天気がよければな」と悔しさを言葉にする子どもたち。それは、大池という自分たちの都合だけではないものに、本気で向き合ってきた子どもたちだからこそ抱いた悔しさだったように思えてなりません。

自分たちの中核活動を、「本当にこれでいいのかな。もっとやりがいを感じたい」と見つめ直した5年生の秋。誰かがやっていたのを見たからではなく、先生に言われたからでもなく、自分たちの意思で大池活動を見だし、歩んできたこの1年半。卒業式の後には中学校の制服を着て、卒業証書を持ったまま大池を見つめる子どもたちの表情からは、「やりきれないけど、やりきった」という確かな自分の歩みを噛みしめているようにも見えました。

